

外国に出掛けたときの心掛けを考える(1)
—日本から一歩出たら誰でも日本代表—

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：最近、外国に出掛けることが多いようですね。

A：(林明夫。以下省略)はい。私は不足している勉強が多く、日本でそれを補いにくいときには外国でと決めております。質の良い充実した勉強の場を求めて、武者修行のような旅をしております。少し難しい言い方をすると、世界におけるベストプラクティスのベンチマーク、つまり世界で行われている最良の実践例を素直な気持ちで学ばせて頂いております。

国内のあちこちにおじゃまさせて頂くことも多いですが、それも、日本におけるベストプラクティスのベンチマークのためです。先程、「武者修行のような旅」といいましたが、私の場合は、「武者修業」といっても勝ち負けを決めるために出掛けているわけではなく、純粋に勉強のために出掛けているので気分はいくらか楽です。但し、真剣に学ばせて頂くという意味で、私にとっての武者修業であると考えています。

Q：外国に出掛けていて、皆様が心掛けた方がよいと思われることがありますか。

A：あります。たくさんあります。この文章を読んで下さるのは、開倫塾の塾生、保護者、地域社会の皆様が多いと思われます。経済が低迷しているとはいえ、これから海外に出掛けるチャンスの多い方々であると思しますので、僭越(せんえつ)ですが、私の気付いたことをこれから少しずつ述べさせて頂きます。

Q：よろしく願います。心掛けておくべき基本的なことは何ですか。

A：外国は、日本とは全く異なる場所であるということです。一度(ひとたび)、日本国のパスポートを持ち外国に出掛けたら、その国にとって、日本人は外国人であるということを自覚することです。

日本国の外交官は日本政府を代表して活動していると、その国では見なされています。同様に、日本国のパスポートを持って外国に出掛けた日本国民は誰でも、日本国を代表して行動していると見なされています。その国の人は、日本人である皆様と直に接することで日本を感じ、日本を想像します。日本人が好きか嫌い、ひいては日本の評価にも大きく影響します。つまり、皆様は、外国に一歩出たら、一人残らず日本国を代表する外交官と言えます。

Q：そうですね。その意味では何が一番大切ですか。

A：躰(しつけ)を身に付けることであると思ひます。躰という漢字は、「身」が「美」しいと書きますね。この漢字からも推測できるように、躰には2つの意味があります。

1つは「美しい立居振舞い(たちいふるまい)」。もう1つは「敬語表現を含む言葉遣い」。この2つをもって躰といいます。外国でも「美しい立居振舞い」と「敬語表現を含む言葉遣い」は大切です。

Q：日本でも難しいのに、外国でそんなことができるのですか。

A：余り難しく考えなくてもいいと思ひます。まず外国での「美しい立居振舞い」から少しずつご説明します。

分かりやすい例として「食事」のお話からいたします。食事のときの「美しい立居振舞い」として一番大切なことは、「音をできるだけ立てない」ということです。

スープを飲むとき、「ズーザー」と音を立てないこと。(スープはスプーンから流し込むように

飲みます。) 麺類(めんるい)も「ズーズー」とすすり込む音を立てないで食べること。(一度にではなく少しずつ何本かずつ食べると余り音がしません。)

噛む(かむ)ときに、「クチャクチャ」と音を立てないこと。

食器を置くときに「ガチャン」と音を立てないこと。(ゆっくりと、静かに置けば音はしません。)

椅子(いす)を引いたり、椅子から立ち上がる時、大きな音を立てないこと。(これも、ゆっくり静かにすれば音はしません。)

会話をするとき、他のテーブルの人に話の内容がすべて聞こえるような大きな声で話さないこと。また、食事中、高い声で笑い続けられないこと。

おならがしたければ、トイレに行ってすること。

このように、できるだけ「音」を立てないことが、外国で食事をするときの「美しい立居振舞い」であると私は思います。

もちろん、楽しく食事をするのが一番大切です。(怒ったりしないで、和やかに食事を楽しむことは、音を立てない以上に大切なことです。)

音を立てると、同じテーブルにいる人や同じレストランにいる人は、多くの場合、気分が悪くなりいたたまれなくなるようです。そして、今日は何て嫌な日なんだろうと思う人も少なくないようです。

では、どうしたら音を立てずに食事ができるようになるのでしょうか。具体的には、同じテーブルに着席した人の「立居振舞い」を観察して、少しずつでいいですから身に付ける努力をすることです。但し、帰国後、周りの皆さんに過度に強制すると嫌がられますから御注意を。(日本で、「そば」や「ラーメン」を音を立てずに食べても、食べた心地がしないですものね。)

Q：食事のときは音を立てないということが、分かったような気がします。そういえば、外国のレストランなどでは、バタバタ遊び回る子どもは余り見かけませんね。

A：食事中に、音を出すことをできるだけ避けるということは、家庭教育として不可欠であるという考えから、徹底的に躾られることが多いようです。

Q：他に、レストランなどで食事をするときに心掛けるべきことはありますか。

A：あります。躾のもう1つの内容である「敬語表現を含む言葉遣い」についてのことです。

レストランに入るときは、「こんにちは」や「こんばんは」にあたるその国の言葉で、レストランの人に挨拶しましょう。その国の言葉を知らないときは、英語で「Hello(ハロー)」、「Hello」も言えなければ日本語で「こんにちは」と挨拶しましょう。何も言わずにズカズカと入っていくと、外国ではびっくりされてしまいます。何て尊大(そんたい)な威張った態度をとる人なのだろうと、良い印象はもたれません。(外国では、エレベーターに乗るときでも、先に乗っている人に、「こんにちは」や「こんばんは」にあたる言葉で挨拶をすることが多いようです。)

レストランで何かを頼むときは、できるだけ「丁寧な」言葉遣いをしましょう。「水(water)。」「オレンジジュース(Orange Juice)。」「コーヒー(coffee)。」などと、ぶっきらぼうに「名詞」のみで頼むことはできるだけ避けましょう。「～をお願いします。」にあたる、その国の言葉を必ずつけることを心掛けて下さい。

英語なら少なくとも“Water, please.” “Orange Juice, please.” “Coffee, please.”と言いましょ。できれば、その国の「私は～が欲しいのですが、お願いします。」にあたる表現を覚えて、積極的に使うようにしましょう。英語なら「I would like to ～, please.」に類する言い方を身に付けましょ。

(1) “Water.” 一語の場合は、「水」と叫んでいるように、さらに言えば、強く命令されているように受け取られるようです。

(2) “Water, please.” では、「水を下さい。」とぶっきらぼうに伝えられているように、さらに言えば、軽く命令されているように感じるようです。

(3) “I would like to have a glass of water, please.” ではじめて、「水を一杯頂きたいのですが、お願いします。」のような意味を相手に伝えることができます。

レストランの人は、日本人から、“Water.”と言われると「うんざり」し、“Water, please.”と言われると「そうか、水か。」と思い、“I would like to have a glass of water, please.”と頼まれると「今日はいいお客様で幸せ」と思うようです。

次回外国に行ったときに、人にものを頼むときの言い方を耳をすませて聴いてみて下さい。日本人にとっては、まわりくどい言い方で面倒に思えるかも知れませんが、少なくとも“please”にあたる言葉をつけ、普通は“I would like to ~, please.”にあたる言葉をつけてものを頼んでいることに気づくと思います。

レストラン以外でも同様です。機中で日本人以外のスチュワーデスにものを頼むとき、コンビニを含めた店でものを買うとき、他人に何か頼むときなどありとあらゆる場面であてはまることから、その国のものを頼むときの言い方を注意して聴き取り、感じの良い言い方だと思ったらメモしておき、自分で使ってみることをお勧めします。

Q：日本語でよく使われる「敬語」表現の3つの中に、「丁寧語」がありますね。外国でもやはり、頼むときの丁寧な言い方は「家庭」で躰けられているのですか。

A：その通りです。「敬語表現を含む言葉遣い」を躰けるのは家庭の役割ですから、徹底的に躰けているようです。できなければ何回でも言い直しをさせることが当然のように行われるようです。子どもに躰をしないのは、親(保護者)としての役割を怠ったこととなります。子どもの将来のために、「美しい立居振舞い」と「敬語表現を含む言葉遣い」を躰けることは親の義務であると考えられる人が多いようです。

Q：その他、必ず躰られる「言葉遣い」はありますか。

A：「こんにちは」「ありがとう」「失礼します」「ごめんなさい」「さようなら」「お元気で」などの「言葉遣い」は、徹底的に躰られるようです。

特に、何かしてもらったときに「ありがとうございます」とお礼の気持ちを伝えることは、何をおいても身に付けさせる家庭が多いようです。何かしてもらったときに“Thank you”を言い忘れると、「何か大切な言葉を忘れてない？」と必ず聞き、言い直しをさせる家庭も多いようです。

言いにくい話ですが、日本人は、「ありがとうございます」という言葉を日本にいても外国に行っても使わなすぎます。特に外国では、何かしてもらったときに「ありがとうございます」と言葉に出して言わないと、尊大な態度、威張った態度をとる人と判断され、場合によっては不快感をもたれ、不利益な扱いを受ける場合すらあります。十分な躰教育を受けていないと判断されるのです。「こんにちは」「失礼します」「ごめんなさい」「さようなら」などの表現が、その場その場で適切に使えないと、相手に好感をもたれることは少なく、良い躰教育を受けていない人とみなされます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：「美しい立居振舞い」や「敬語表現を含む言葉遣い」を身に付けるために、自分のお手本にすべき人をお捜しになることをお勧めします。良い印象をもったり、感じたりしたことを一日の終わりに日記などに記録して、自分もそのような立居振舞いや言葉遣いをするように心掛けることをお勧めします。

ニューヨーク・ヤンキースの松井秀喜選手などは素晴らしいお手本であると思います。

日本から一步外に出たら誰でも日本代表の外交官と同じであると考え、「美しい立居振舞い」や「敬語表現を含む言葉遣い」を心掛けて頂きたく希望いたします。